

緑橋防潮水門

中部地方の
選奨土木遺産

所在地：三重県熊野市～南牟婁郡御浜町 竣工年：大正7年

管理者：三重県県土整備部河川課

認定理由：熊野灘に注ぐ市木川の河口部分に建設された防潮堤と橋を兼ねた石材と煉瓦による構造物で、高潮被害から地域を守り続けた施設。

平成29年度登録



緑橋防潮堤下流側。切石による造形がシンプルながら美しい。

熊野灘に沿う日本屈指の長い砂礫海岸は、熊野詣をする人々の行き交う熊野街道になっていたが、近世までは橋がなく、引き潮の浜を渡り、遭難者も多い難所だった。明治期に橋が架けられたが頻りに流される状況であった。結局この街道が安定するのは、別のさらに深刻な要請からであった。

高潮時には、後背地の田が冠水する地形であり、一帯の土地利用が困難であった。日露戦争後に国家的な食糧増産の要請の中、安定した耕地を求めて市木村の陳情が盛んに行われる。村長は2代(山本松盛・山本光夫)に渡って熱心にこれを率い、県会議員の助力によって、ついに防潮堤と橋梁を兼ねる強固な構造物の建設が実現されることになる。総工費は5万9850円725銭であったが、そのうち2万円は市木村からの寄附が充てられた。

大正7年に竣工した同施設は、切石の布積みで構成され、水門のアーチは煉瓦造である。防潮堤と道路を兼ねる両脇の堤防は、下半が間知石積みで巻き立てられた。南牟婁郡内に同様の構造物として、井戸川の亀齢橋(明治42年)、志原川の汐止扉門(昭和7年)がある。亀齢橋は現存しない。志原川汐止扉門は、シルエットを緑橋に似せてある。緑橋防潮堤の意義を知る上で興味深い。



▲『南牟婁郡誌』(1925、三重県南牟婁郡教育會)の付録図。海岸線沿いに橋の絵が描かれているが、1が緑橋防潮水門。2は少し前につくられた亀齢橋。3の位置にこの後、汐止扉門が建設される。



▲ 下流側から見る緑橋防潮水門。背後にJR紀勢線の架橋が見える。新緑橋(県道)からの視点。



- ◀◀ 上流側から見る緑橋防潮水門。
- ▲ 水門の内側が見える。アーチは煉瓦造。
- ▲ 橋梁の高覧は石造の部分が残る。
- ▲ 石造の親柱も残るが、一部高覧が普通のガードレールで補修されており惜しい。

